

昨年度より4,843名程減少したが、これは学生、生徒の利用者が減ったためである。その反面一般成人が逆に3,431名増加している。特に館外個人貸出が目立って多い。

それでは、どんな人々によって利用されているかを職種別にみると、学生、生徒を除けば、主婦、無職、自由業、その他について官公吏、銀行会社員、商業、工業技術者の順で、一般成人の利用者が増加する傾向にある。その理由として考えられるものをあげれば、

- イ) 参考事務係の強化以来、郷土資料と特許関係資料の利用者が増加している。
- ロ) 館外個人貸出利用者がふえた原因としては、資料面において、小説類、広い意味で生活に結びついた手引書（E E C関係書、子供の教育関係書、デパート利用法）等を取揃えたことである。
- ハ) 各種の団体の催物には積極的に参加するなり後援するなりして図書館奉仕活動をPRしたことも間接的に影響している。

例) 福島県古代文化史展に施設提供

地方史研究講習会を主催

第8回福島県発明展に特許資料提供等

2 読書傾向

ここ数年来、日本図書館界の現象として、学生、生徒の利用者の大半は、図書館を勉強の場所に利用しているに過ぎないことがある。このような傾向は、公共図書館の主目的である資料の利用が第二義的になるおそれもあるので、極力資料の利用を指導する必要がある。もっとも、公共図書館の性格上、資料収集は成人を対象としている関係上学生向けの資料が少ないことにもよる。それに加えて、出版界では、学生の好みに応じた参考書が豊富に市販されていることも原因している。

そこで、読書傾向として部門別にみると、文学が圧倒的に多く利用され、つぎに社会科学、雑誌、歴史、総記、自然科学、工学・家事の順で、あまり利用されないのが産業書である。この読書傾向は、著者やマス・コミの影響により左右され、特に文学書はその傾向が著しい。

その例として、山岡荘八著、講談社発行の「徳川家康」が経営者として現代人でも学びとるところが多くあることをマス・コミによって宣伝されたためか、最近銀行会社関係の人々や経済学部関係の学生が盛んに利用している。

前記にもあるように、資料面の充実の一環として雑誌類を大幅に増加（別表購入雑誌一覧表参照）し、教養、娯楽、趣味等各分野にわたる月刊、旬刊、週刊誌を取り揃え、一般成人の利用を働きかけているが、一般に雑誌は立読みする人が多く利用されている割合に記録に現われ

ないのが実情である。

利 用 状 況

昭和37年4月～昭和38年3月

職 業 別	職業別利用者数			
	館	内	計	比率
中学校生	16,681	—	16,681	13.5
高大生	51,397	—	51,397	41.7
官育者	18,980	(3,977)	22,957	18.6
公務員	291	(164)	455	0.4
銀行会社員	2,085	(1,984)	4,069	3.3
農業業者	1,653	(1,068)	2,721	2.2
商工業者	151	(7)	158	0.1
工業技術者	211	(79)	290	0.2
自由業・その他	179	(90)	269	0.2
主婦・無職	4,601	(387)	4,988	4.0
児童	11,974	(905)	12,879	10.4
	6,669	—	6,669	5.4
計	114,872	(8,661)	123,533	100.0
男女	70,594	(5,400)	75,994	61.5
	44,278	(3,261)	47,539	38.5
計	114,872	(8,661)	123,533	100.0

分 類 別	分類別利用図書冊数			
	館	内	計	比率
総記	2,412	(159)	2,571	4.4
哲學	968	(488)	1,456	2.5
歴史	3,027	(709)	3,736	6.4
社会	3,641	(1,347)	4,988	8.7
自然	1,912	(433)	2,345	4.0
科学	1,782	(270)	2,052	3.5
工芸	772	(237)	1,009	1.7
産業	1,270	(315)	1,585	2.7
言語	1,077	(195)	1,272	2.2
文學	6,820	(5,107)	1,927	20.6
雑誌	4,645	(40)	14,685	8.1
児童図書	20,390	—	20,390	35.2
計	48,716	(9,300)	58,016	100.0

註()内の数は、館外個人貸出を示す。

開館日数 282日

一日平均利用者数 407人 (31人) 計438人

購 入 雜 誌 一 覧

○印は新規購入雑誌名を示す

〔総合〕

世界	月	岩波書店	130
中央公論	月	中央公論社	150
文芸春秋	月	中央公論社	100

〔哲学〕

○思想	月	岩波書店	100
○思想の科学	月	中央公論社	90

〔歴史地理〕

○考古学雑誌	季	日本考古学界	
--------	---	--------	--